

千野 健太郎 内容の要旨

氏 名	千野 健太郎
学位の種類	博士（医学）
学位記番号	甲第 1395 号
学位授与の日付	平成 30 年 9 月 21 日
学位授与の要件	学位規則第 3 条第 1 項第 3 号に該当
学位申請論文タイトル及び掲載誌	
	リウマチ性多発筋痛症に対するステロイド治療の有用性に関する研究
Thesis	
学位審査委員（主査）教授	三村 俊英
	（副査）教授 島田 朗、教授 橋本 正良、准教授 柴崎 智美

論文内容の要旨

「目的」

リウマチ性多発筋痛症 (PMR) に対するステロイド治療の現状を調査し、その課題を明らかにする。

「方法」

2005 年 6 月から 2014 年 12 月までに 2012 年の EULAR/ACR の分類基準に合致し PMR と診断されて、ステロイドによる治療を開始された 72 例を後ろ向きに診療録で調査した。治療開始から 3 ヶ月以上経過を追跡し得た 63 例について、治療開始後 1 ヶ月、3 ヶ月、6 ヶ月、1 年、2 年における寛解の有無を調べた。次に、治療開始後 1 ヶ月で寛解した群（寛解群）としなかった群（非寛解群）の患者背景、治療経過を比較した。さらに、1 ヶ月で寛解を達成した群で、その後 2 年間寛解を維持した群（寛解維持群）と 1 度以上再燃した群（再燃群）で患者背景などを比較検討した。最後に、全 72 例の全経過で発生した有害事象を調べた。

「結果」

63 例中、39 例が 1 ヶ月で寛解し (62%)、2 年で 50 例が寛解を達成した (79%)。また、1 ヶ月で寛解を達成した寛解群では、CRP が非寛解群よりも有意に低く、アルブミン、ヘモグロビンが高値であった。そして、治療開始時の CRP が独立した予測因子として抽出され、cut-off point は CRP 6.2 mg/dl であった。寛解維持群と再燃群の患者背景、治療経過に違いはなく、寛解維持に関わる予測因子も不明であった。全 72 例の全経過 (210 人年) で、敗血症などの感染症 15 件、胃癌などの悪性腫瘍 6 件、心筋梗塞などの心血管イベント 6 件、腰椎圧迫骨折などの筋骨格、神経系 19 件に加えて、高血圧症 4 件、脂質異常症 26 件、糖尿病 12 件などステロイドに関連すると思われる多数の有害事象が出現した。

「結論」

PMR にステロイドは有効ではあるが、寛解率は約 8 割にとどまっており、ステロイドに関連すると考えられる有害事象が多く見られたことから、ステロイドに依存しない新たな治療戦略が必要と考えられた。